

極 研 広 第 24号

令和4年9月15日

各都道府県知事

附属学校を置く各国立大学法人学長 殿

附属学校を置く各公立大学法人の理事長

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構

国立極地研究所長

中 村 卓 司 (公印省略)

2023 年度教員南極派遣プログラムの実施にかかる教員募集について (依頼)

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

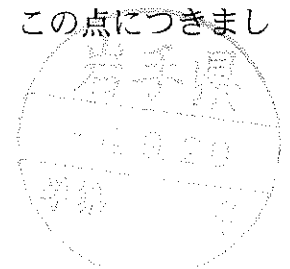
南極地域観測事業の中核機関である国立極地研究所では、2022 年度に引き続き、2023 年度も「教員南極派遣プログラム」を実施することとし、派遣教員の公募を開始しました(*)。

このプログラムは、(公財)日本極地研究振興会との共催により、文部科学省(南極地域観測統合推進本部)と連携して実施するもので、小・中・高校等の現職教員を南極の昭和基地に派遣し、教員が企画する「南極授業」を、衛星回線を利用して行うものです。さらに、南極に関する理解の向上のための情報発信や、帰国後の活動のための知識の習得や自己研鑽をしていただくことも目的としています。

つきましては、本募集に関して、関係者への周知にご協力をいただきたくお願いいたします。また、応募にあたっては、下記のとおり法人代表者の推薦及び学校長の許可を必要としますので、よろしくお取り計らい願います。

なお、このプログラムによる派遣につきましては、当該教員の給与と不在となる間の人員補充は、当該学校のご協力、ご配慮をお願いするものとなっております。この点につきましても、よろしくお取り計らい願います。

*掲載 URL: <https://www.nipr.ac.jp/antarctic/info/2023teacher/>



記

1 推薦締め切り及び書類提出期限

2022 年 12 月 5 日（月）17：00（必着）

2 提出書類について（添付の実施要項を参照）

- ① 参加申込書（別紙様式 1）・・・・・・・・・・応募教員が作成
- ② 応募教員履歴書（別紙様式 2）・・・・・・・・・・応募教員が作成
- ③ 健康調書（別紙様式 3）・・・・・・・・・・応募教員が作成
- ④ 学校長作成の推薦書（別紙様式 4）・・・・・・応募教員が所属する学校長が作成
- ⑤ 学校長作成の許可書（別紙様式 5）・・・・・・応募教員が所属する学校長が作成
- ⑥ 法人代表者作成の推薦書（別紙様式 7）・応募教員が所属する法人代表者が作成
- ⑦ 授業計画（様式自由）・・・・・・・・・・応募教員が作成
- ⑧ 帰国後の活動計画（様式自由）・・・・・・・・・・応募教員が作成
- ⑨ 応募書類チェックリスト・・・・・・・・・・送付担当者が作成

※別紙様式 6 は公立学校用なのでここでは記載していません。

3 書類送付先

〒190-8518 東京都立川市緑町 10-3

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所 広報室 宛

※封筒の表に「教員南極派遣プログラム応募書類」と朱書きのこと。

4 問合せ先

国立極地研究所 広報室

メール：kofositu@nipr.ac.jp

電話：042-512-0655

2023 年度 教員南極派遣プログラム 募集要項

2023 年 11 月に日本を出発予定の第 65 次南極地域観測隊夏隊（以下、「観測隊」）に同行し、昭和基地から「南極授業*」を行う教員を募集します。

本プログラムは、極地の科学や観測に興味を持つ現職教員を南極・昭和基地に派遣し、衛星回線を利用して、現地から派遣教員が企画する「南極授業」を行うものです。大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所および公益財団法人日本極地研究振興会が、文部科学省（南極地域観測統合推進本部事務局）と連携して実施します。

派遣教員には、この「南極授業」や帰国後の活動を通して、国内の小・中・高等学校等の児童生徒や一般に向けて、南極に関する理解向上につながる様々な情報発信をしていただくこと、また、そのための知識習得や自己研鑽をしていただくことを期待しています。

*「南極授業」とは：

昭和基地と国内を衛星回線で結び、派遣教員が自身の計画に基づいてコンテンツを作成し、所属校等に向けて行う授業です。授業内容は、南極に関係するものであれば、専門教科は問いません。

なお、コンテンツ作成は、例年、観測隊の南極行動中における野外観測チームへの同行、設営作業への参加、昭和基地や南極観測船「しらせ」船内の生活など、同行する観測隊の活動を素材として、自身が現地で映像編集、資料作成等を行い完成させる必要があります。

《重要》応募にあたって

- 南極地域観測事業は、国の予算で実施されている事業です。本公募実施段階では 2023 年度の国の予算が成立していないため、今後の状況によっては、公募内容の変更、募集中止となる場合があります。
- 昭和基地周辺の海氷状況は毎年変化しており、南極観測船「しらせ」の昭和基地沖への接岸、物資輸送など観測隊の活動にも影響を及ぼしています。

観測隊の活動では、特に物資輸送は最重要事項であり、この実施状況によって、観測・設営に関する計画が、縮小・中止となる可能性もあります。

その場合、本プログラムの実施についても、当初計画から変更となる可能性があることを、あらかじめ、ご承知おきください。

1. 応募教員の資格

教員免許を有し、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校に現職として勤務する教員であること。勤務先は日本国内のみとする。

2. 応募教員の条件

- (1) 極域の科学と極地観測等に興味と関心をもっていること。
- (2) 児童・生徒に対する南極の多様な価値への理解・興味・関心の向上を目的として、地球環境、国際協調、SDGs等を題材とした「南極授業」の企画立案および実施ができること。
- (3) 所属校の児童・生徒に向けた「南極授業」が実施できること。
- (4) 所属する学校長の推薦と派遣の許可が得られること。
- (5) 公立学校所属の場合は、所管の教育委員会の推薦が得られること。国立大学附属学校、公立大学附属学校、私立学校所属の場合は、学校長、もしくは法人代表者の推薦が得られること。
- (6) 授業で使用するコンテンツをご自身で作成できること(例：PowerPoint や Keynote を用いてコンテンツ作成ができること等)。
- (7) 本プログラムへの参加から得られた知識や体験などを、帰国後の教員としての活動において、南極に関する理解向上につながる様々な情報発信を継続して行う意欲をもつこと。

なお、参加にあたっては、「1 1. 応募に当たっての留意事項」をご確認いただき、ご理解いただけることが条件です。

3. 募集期間

2022 年 9 月 14 日 (水) ～ 2022 年 12 月 5 日 (月)

4. 派遣予定人数

1～2 名

5. 派遣期間 (予定)

2023 年 11 月下旬～2024 年 3 月下旬

(昭和基地での滞在期間：2023 年 12 月下旬～2024 年 2 月中旬)

※62 次隊、63 次隊では、新型コロナウイルスの感染拡大による国内外の情勢により、出国前に 2 週間程度の隔離期間を設け、11 月上旬出国となりました。また、63 次隊では、3 月末の帰国後に隔離期間が必要となり、隔離明けが 4 月になりました。64 次隊は、出国前に 10 日程度の隔離期間を設け、11 月上旬に出国予定です。

6. 選考方法

主催者が設置する 2023 年度教員南極派遣プログラム派遣候補者選考委員会で選考します。選考は、書類審査及び面接により実施します。

- ・ 第一次選考： 書類審査
- ・ 第二次選考： 面接（2022 年 12 月 25 日（日）、1 人あたり約 30 分）
国立極地研究所を会場に、もしくはオンライン（Zoom 等）で実施します。
面接に要する交通費は、各自でご負担ください。）

7. 選考基準

「南極授業」計画案の実現性および着眼点、ならびに帰国後の活動計画案の具体性および効果等により総合的に選考します。

8. 選考結果の通知

（1）応募教員への通知

- ・ 第一次選考： 第二次選考に進む方のみに、2022 年 12 月 19 日（月）までに E メールで連絡します。
- ・ 第二次選考： 第二次選考を受けた方全員に、2023 年 1 月 6 日（金）までに E メールで連絡します。

（2）推薦者への通知

2023 年 1 月下旬までに、書面で通知します。

通知の宛先を「応募書類チェックリスト」に記入してください。ただし、公立学校の場合は、都道府県教育委員会または指定都市教育委員会とし、国立大学附属学校、公立大学附属学校、私立学校の場合は、学校長もしくは法人代表者とします。

9. 応募方法

（1）応募教員が以下の書類を作成し、所属する学校へ提出ください。

- ①参加申込書（別紙様式 1）
- ②履歴書（別紙様式 2）
- ③「南極授業」計画案（昭和基地から自分ならこのような授業をするという内容）
（様式自由、A4 サイズ、6 ページ以内）
授業の時間は、1 コマ 45 分程度。南極で行う授業のコマ数については、当該観測隊の全体計画を踏まえて後日決定しますが、1 名につき 1～2 コマ程度を予定しています。
- ④帰国後の本プログラムに関する活動計画（様式自由、A4 サイズ、2 ページ以内）
帰国後、概ね 5 年程度の活動計画について記載ください。
- ⑤健康状況の分かる書類
 - 1) 所属先等での直近の健康診断結果（写可）
無い場合はお手数ですが、受診医療機関で結果の再発行をお願いします。
 - 2) 現在かかっている病気等がある場合はその診断書（写可）
 - 3) 健康調書（教員南極派遣プログラム用）（別紙様式 3）

(2) 応募教員が所属する学校又は教育委員会が以下の要領で書類を作成し、提出してください。

①公立学校の場合

1) 学校の推薦及び許可

応募教員が所属する学校長が、推薦書（別紙様式4、封筒に入れ封印を押すこと。開封無効）及び許可書（別紙様式5）を添えて、上記（1）の書類を学校を所管する都道府県教育委員会、指定都市教育委員会又は中核市教育委員会に提出してください。

2) 教育委員会の推薦

各都道府県教育委員会及び各指定都市教育委員会は、中核市教育委員会経由のものを含めて応募教員をとりまとめ、推薦書（別紙様式6）を付して（1）及び（2）

① 1) の書類とともに「11. 応募書類の送付先」に郵送してください。

②国立大学附属学校、公立大学附属学校、私立学校の場合

応募教員が所属する学校長が、推薦書（別紙様式4、封筒に入れ封印を押すこと。開封無効）、許可書（別紙様式5）及び、学校長もしくは法人代表者の推薦書（別紙様式7）を添えて、上記書類を「11. 応募書類の送付先」に郵送してください。

10. 応募書類の送付先

〒190-8518 東京都立川市緑町 10-3 国立極地研究所 広報室

- ・ 9. 応募方法にある必要書類に「応募書類チェックリスト」（別紙様式8）を添え、封筒の表に「教員南極派遣プログラム応募書類」と朱書きして送付ください。
- ・ 必ず郵送してください（持参での提出不可）。郵便事故が心配な方は書留にしてください。

*2022年12月5日（月）17:00 必着

11. 応募に当たっての留意事項（特に重要）

観測隊の同行者であっても、観測隊員と同様の環境下で行動をすることになります。観測隊員の公募要項に示されている事項を以下に抜粋しますので、理解したうえで応募してください。

南極は極寒、強風、極夜の存在など、自然環境の過酷な場所です。また、南極での行動中は文明圏と隔離された少人数からなる閉鎖社会となり、国内とはかなり異なった条件下で業務に就くことになります。職務に必要な専門的知識・経験を有することはもとより、心身ともに健康で協調性があり、歴史ある国家事業に従事する観測隊員としての自覚と責任を持てることが条件となります。詳しくは、以下を確認ください。

- ① 南極地域観測隊員として観測事業に携わることについての説明（参考資料1）
- ② 南極における医療の現状と限界についての説明（参考資料2）

1 2. 経費について

派遣に関する以下（１）～（８）の経費は、主催者が負担します。

- （１）航空運賃：成田（羽田）空港からオーストラリアの往復航空運賃（空港施設利用料、空港税等を含む。）
- （２）派遣者の居住地（または勤務先）から成田（羽田）空港までの往復交通費
- （３）南極観測船「しらせ」乗船中ならびに昭和基地滞在中の食費
- （４）身体検査費
- （５）事前訓練（冬期総合訓練及び夏期総合訓練：各５日程度）参加旅費
- （６）観測隊全員打ち合わせへの参加及び血液交差試験の受検のために国立極地研究所へ来所する場合、参加旅費
- （７）観測隊帰国報告会参加旅費
- （８）衣類・装備経費：観測隊員に準じた衣類・装備類を支給（一部は貸与）

※派遣教員の給与や代替教員を置く場合の経費、南極授業に使用する物品等の購入経費、国内での個別訓練が必要となった場合の経費、パスポート申請にかかる費用については、本プログラムでは負担いたしません。

1 3. 候補者となった場合

- （１）南極授業の実施に向け、選考後早い時期に所属校での打合せを行う予定です。
- （２）観測隊員と同等の身体検査を受けていただきます。
- （３）身体検査の合格後に、南極地域観測統合推進本部（本部長：文部科学大臣）に推薦し、所要の手続きを経て第 65 次南極地域観測隊同行者として決定します。
- （４）国立極地研究所が実施する事前訓練及び事前打ち合わせに参加してください。
特に、2023 年 2 月 27 日（月）～3 月 3 日（金）に実施する冬期総合訓練（実技中心）及び 6 月中旬～下旬に実施する夏期総合訓練（講義・打ち合わせ中心）に参加し、観測隊の活動計画を十分承知していただく必要があります。
- （５）日本極地研究振興会が実施するこれまでの派遣教員等との意見交換会に参加し、授業計画の事前準備と帰国後の活動計画について打ち合わせをしていただきます。
- （６）終了後は、活動状況のレポートを主催者に提出することのほか、主催者の広報誌等への寄稿、南極を題材にした教材作成について協力をお願いする場合があります。また、国内の小・中・高等学校等の児童生徒および広く一般に向けて、南極に関する理解の向上のための講演など情報発信をお願いします。

※候補者として選考された場合でも、訓練や打合せの状況などを踏まえ、「2. 応募教員の条件」や「1 1. 応募に当たっての留意事項」に記載されてくる条件を満たしていないと判断される場合は、選考を取り消すことがあります。応募書類に虚偽の記載等があった場合も同様です。加えて、身体検査の結果で、観測隊参加が困難であると認められた時は、参加出来ない場合があります。

14. 今後のスケジュール（予定）

2022 年

- 9 月 14 日 本公募開始
- 12 月 5 日 応募締め切り、審査開始
- 12 月下旬 候補者決定
- ～1 月上旬

2023 年

- 2 月上旬以降 派遣候補者身体検査開始（5 月くらいまでにかけて受診）
その後、医師による検査結果の確認があり、問題なければ南極地域観測
統合推進本部（文部科学省）第 65 次南極地域観測隊同行者候補者として
推薦（6 月）
- 2 月 27 日 第 65 次南極地域観測隊冬期総合訓練（長野県、実技中心）
- ～3 月 3 日
- 6 月中旬～下旬 第 65 次南極地域観測隊夏期総合訓練（オンライン予定、打合せ中心）
- 6 月下旬 第 65 次南極地域観測隊同行者に決定
- 7 月以降 観測隊全員打ち合わせ（オンライン予定、月 1 回程度）
- 9 月頃 血液交差試験等（国立極地研究所）
- 11 月下旬 観測隊 成田空港を出発、西オーストラリア州フリーマントル港にて南極
観測船「しらせ」に乗船、南極へ向かう
- 12 月下旬 昭和基地到着

2024 年

- 1 月下旬 南極授業
- ～2 月上旬
- 2 月中旬 昭和基地出発
- 3 月下旬 オーストラリアから空路帰国
- 4 月 教員南極派遣プログラムの帰国報告会

15. その他

（1）問い合わせ先

国立極地研究所 広報室

メール：kofositu@nipr.ac.jp 電話：042-512-0655

〒190-8518 東京都立川市緑町 10-3

（2）この要項に定める項目のほか、派遣に必要な事項は主催者が定めます。

（3）個人情報の取り扱い

本募集に関連して提出された個人情報については、選考の目的に限って使用し、選考
終了後は、採用された方の情報を除き全ての個人情報は責任を持って破棄します。

(別紙様式)

- 教員南極派遣プログラム参加申込書 (別紙様式 1)
- 応募教員履歴書 (別紙様式 2)
- 健康調書 (教員南極派遣プログラム用) (別紙様式 3)
- 学校長作成の推薦書 (別紙様式 4)
- 学校長作成の許可書 (別紙様式 5)
- 教育委員会作成の推薦書 (別紙様式 6)
- 法人代表者作成の推薦書 (別紙様式 7)
- 応募書類チェックリスト (別紙様式 8)

(参考資料)

- 南極地域観測隊員として観測事業に携わることについての説明 (参考資料 1)
- 南極における医療の現状と限界についての説明 (参考資料 2)
- 国立極地研究所 南極観測 教員南極派遣プログラムのページ
<https://www.nipr.ac.jp/antarctic/outreach/dispatch.html>
- 日本極地研究振興会 教員南極派遣プログラムのページ
<https://kyokuchi.or.jp/program>

2023 年度 教員南極派遣プログラム 参加申込書

令和 年 月 日

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所長 殿
公益財団法人日本極地研究振興会 理事長 殿

私は、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所と公益財団法人日本極地研究振興会が主催する 2023 年度教員南極派遣プログラムへ応募いたしたく、添付のとおり関係書類を提出します。

勤務先の 学 校 名			
職 名			
ふ り が な			
氏 名			
生 年 月 日	西暦 年 月 日生	年 齢	歳

(別紙様式2)

履歷書

年 月 日現在

[illegible]

同行決定後の記入欄

--

[illegible]

寒冷地及び積雪地の経験（場所・期間）			
海外旅行及び海外生活の経験（場所・期間）			
スポーツ歴（種類・期間）			
趣味及び特技			
嗜好品			
応募動機			
PowerPoint、Word、Excel や簡単な動画編集などの PC の操作スキルの有無、経験等 （授業のコンテンツ作りは自身で行うため、PC の操作技術が必要）			
応募にあたって、 家族の了解の有無 ※	得ている・得ていない （いずれかに○）	得ている場合	両親 ・ 配偶者 ・ その他（ ） （いずれかに○）

※南極における医療の現状と限界についての説明（参考資料 2）を熟読し、家族に説明した上で了解を得ているかどうか

健康調書の作成について

【記入上の注意】

この申請書は、教員南極派遣プログラム応募者に対し、南極地域における観測活動に従事するために必要な身体についての健康判定の基礎となるデータを得るために行うものです。正確に漏らさずに記入してください。

得られたデータは、情報・システム研究機構国立極地研究所極地観測隊員健康判定委員会(以下「健康判定委員会」)において総合的に審議されるための事前の資料となります。

また、申請書は将来的な医療改善と医学的研究推進のため、個人を特定できない形で活用される他は、職務に関係の無い第三者の目に触れたり、前述以外の他の目的に使用されることはありません。

なお、身体検査受診時に記入していただく健康調書(Ⅰ)という書類に今回記入していた書類も使用しますので、あらかじめご了承ください。

健康調書（教員南極派遣プログラム）

○記載項目

ふりがな
氏 名

性別： 男・女

生年月日 西暦 年 月 日（満年齢 歳 ヶ月）

Ⅲ 既往歴

1. 現在までにかかった病気や負傷の種類、その時期や経過について、記入してください。

罹患時期	病名又は負傷名	その年齢	経 過
出 産 直 後 及 び 乳 児 期			
学 齢 期 前			
小学校から 高 校 ま で			
以 後			

2. 最近疲れを感じますか。

疲れを感じる

疲れを感じない

3. 最近体重に変化が有りますか。

増加(kg / ヶ月前から)

変化なし

減少(kg / ヶ月前から)

4. かぜにかかり易いですか。

かかり易い（頻度 回/年）

かかりにくい

5. 扁桃腺炎にかかり易いですか。

かかり易い

かかりにくい

6. 血圧を測定したことが有りますか。

有 無

「有」に○をつけた方は、下記の該当欄を記入してください。

項 目	年 齢	収縮期血圧(最大)～拡張期血圧(最小)	
はじめて血圧を測定した時	歳	mm Hg ～	mm Hg
高血圧と言われた時	歳	mm Hg ～	mm Hg
低血圧と言われた時	歳	mm Hg ～	mm Hg

7. 次の症状を訴えたことがあれば○印をつけて、その年齢を記入してください。

脈のみだれ (歳) 胸ぐるしさ (歳)

動 悸 (歳) む く み (歳)

息 切 れ (歳) 脈拍が多い (歳)

8. 寒いときの手足の冷えが

強い 弱い

9. 寒いとしもやけが

出来やすい 出来にくい

10.

(1) ツベルクリン反応

陽 性 陰 性

「陽性」に○をつけた方は、次の事項を記入してください。

①陽 転 の 時 期 : 歳

②陽 転 の 原 因 : 自然陽転 B C G陽転

③B C Gの接種 : 有 無

(2) 胸膜炎にかかったことが有りますか。

有 (____歳) 無

胸に水がたまったことが有りますか。(「有」に○をつけた方のみ回答してください。)

有 無

(3) 肺結核にかかったことが有りますか。

有 (____歳) 無

(4) 気管支喘息にかかったことが有りますか。

有 (____歳) 無

(5) その他の呼吸器疾患、例えば、肺炎、気管支炎などにかかったことが有りますか。

有 (病名____・____歳) 無

(6) 次の症状を呈したことが有れば○印をつけて、その年齢を記入してください。

寝汗 (____歳) 喀血 (____歳) 咳 (____歳)
胸痛 (____歳) たん (____歳)

1 1. 次の症状を呈したことが有れば○印をつけて、その年齢を記入してください。

黄疸 (____歳)	胆石症 (____歳)
胃・十二指腸潰瘍 (____歳)	回虫症 (____歳)
十二指腸虫症 (____歳)	よく食べ物が嘔めない (____歳)
口がくさい (____歳)	舌がいつも白い (____歳)
食欲がない (____歳)	食後げっぷが多い (____歳)
食後におなかが張ったり胃の具合が悪い (____歳)	
胸やけやすっぱい水が上がる (____歳)	おなかがすいた時、腹が痛い (____歳)
激しい腹痛で時々悩む (____歳)	食べ物がのどや胸につかえる (____歳)
しばし下痢をする (____歳)	血の混じった便が出る (____歳)
黒い便が出たことがある (____歳)	
便秘と下痢を繰り返した (____歳)	

1 2.

(1) 次の症状を呈したことが有れば○印をつけてください。

排尿時に痛みがある (____歳)	排尿しにくかった (____歳)
むくみ (____歳)	排尿の回数が多くなった (____歳)
排尿してもまだ尿がたまっている感じがあった (____歳)	
尿量が多くなった (____歳)	尿量が少なくなった (____歳)
尿に血が混じった (____歳)	腎結石のような痛みがあった (____歳)
尿に蛋白が出ると言われた (____歳)	精液に血が混じった (____歳)

(2) 腎炎にかかったことが有りますか。

有 (____歳) 無

(3) 腎結石にかかったことが有りますか。

有 (____歳) 無

(4) 膀胱炎、腎盂炎にかかったことが有りますか。

有 (____歳) 無

1 3.

(1) 次の症状を呈したことが有れば○印をつけてください。

口のかわき (____歳)	性欲がなくなった (____歳)
多量の水を飲む (____歳)	皮膚が化膿しやすい (____歳)

(2) 尿から糖が検出されたり、糖尿病と診断されたことは有りますか。

有 (____歳) 無

1 4.

(1) 次の疾患にかかったことが有れば○印をつけてください。

梅毒 (____歳) 淋病 (____歳) 軟性下疳 (____歳)

(2) ワッセルマン反応を調べたことが有りますか。

有 (陽性・陰性) 無

15. リウマチ、神経痛、関節の痛みなどを訴えたことが有れば、その部位と年齢を記入してください。

部位：_____ 年齢：_____歳

16.

(1) 微熱（37℃～38℃）が1週間以上持続したことが有りますか。

有（_____歳） 無

(2) 38℃以上の発熱が数日以上持続したことが有りますか。

有（_____歳） 無

(3) 赤痢、腸チフス、日本脳炎、マラリアなどの伝染病にかかったことが有りますか。

有（病名：_____・_____歳） 無

17. 膠原病、じん麻疹、薬品アレルギー、花粉症、その他のアレルギーの疾患にかかったことが有りますか。

有（病名：_____・_____歳） 無

18.

(1) 皮下に多くの出血斑がでたことが有りますか。

有（_____歳） 無

(2) 歯ぐきからしばしば出血したことが有りますか。

有（_____歳） 無

(3) 貧血にかかったことが有りますか。

有（_____歳） 無

(4) 血液の病気にかかったことが有りますか。

有（_____歳） 無

19. 甲状腺異常、その他の内分泌疾患にかかったことが有りますか。

有（病名：_____・_____歳） 無

20.

（1）次の症状を呈したことが有れば○印をつけてください。

頭痛（ 長く続いた 急激に起こった _____歳）

頭が重い（_____歳） めまい（_____歳） のぼせ（_____歳）

肩こり（_____歳） けいれん（_____歳） 卒倒（_____歳）

手足が不自由（_____歳） 手や指がふるえる（_____歳）

しびれる（_____歳） 歩くのが不自由（_____歳）

意識がなくなった（_____歳） てんかん（_____歳） 喋りづらい（_____歳）

乗り物酔い（_____歳） 手のふるえ（_____歳）

寝つきが悪い（_____歳） めざめやすい（_____歳）

毎日規則的に就寝できない（睡眠時間_____時間・_____歳）

21.

（1）近視

有（視力：右_____・左_____） 無

（2）色盲

有 無

（3）結膜炎、その他の眼科疾患にかかったことが有りますか。

有（病名：_____・_____歳） 無

22.

（1）耳鳴りを訴えたり、聞こえにくかったりしたことが有りますか。

有（_____歳） 無

（2）外耳炎、中耳炎、乳様突起炎、その他の耳鼻科疾患にかかったことが有りますか。

有（病名：_____・_____歳） 無

23.

(1) 湿疹、じん麻疹、水虫、その他の皮膚疾患にかかったことが有りますか。

有 (病名: _____・____歳) 無

(2) 次の症状を呈したことが有れば○印をつけてください。

皮膚が敏感で弱い (____歳) 汗がひどい (____歳)

発疹がしやすい (____歳)

薬物を使ったあと皮膚に発疹が出たりかゆくなった (____歳)

薬物を使ったあとでむかついたり、気分が悪くなった (____歳)

24. むし歯は有りますか。

_____本 (治療済_____本、未処理_____本)

25.

(1) 外傷を受けたことが有りますか。

頭部外傷 有 (____歳) 無

内臓損傷 有 (部位: _____・____歳) 無

骨折・脱臼 有 (部位: _____・____歳) 無

はれもの 有 (部位: _____・____歳) 無

(2) 腹部の手術を受けたことが有りますか。

有 (病名: _____・____歳) 無

(3) 肛門からの出血、肛門周囲のかゆみ、痔、脱腸、ヘルニアなどにかかったことが有りますか。

有 (病名: _____・____歳) 無

(4) その他外科的治療 (手術) を受けたことが有りますか。

有 (病名: _____・____歳) 無

(病名: _____・____歳)

26.

(1) お酒は飲みますか。

飲む 飲まない

「飲む」に○をつけた方は、次の①～③にも回答してください。

①好きな酒の種類

清酒 焼酎 ビール ウイスキー ワイン その他 (_____)

②量はどのくらい飲みますか。(例えば、清酒 2 合など具体的に記入してください)

毎日 _____

機会があれば _____

最高に飲んだ時の量 _____

③酒の肴は食べますか。

食べる (種類: _____) 食べない

(2) タバコは吸いますか。

吸う 吸わない

「吸う」に○を付けた方は、次の①②にも回答してください。

①1日にどれくらい吸いますか。

_____本

②いつ頃から吸い始めましたか。

_____歳

(3) コーヒーは飲みますか。

飲む (1日カップ _____ 杯) 飲まない

飲むときの砂糖の量 (スプーン _____ 杯)

(4) その他の特別な嗜好品があったら、その品名と量を書いてください。

(_____)

27.

(1) 睡眠薬、精神安定剤を使用したことが有りますか。

有 無

「有」に○をつけた方は、次の①～③にも回答してください。

①い つ 頃：_____歳

②期 間：_____

③使用の理由：_____

28. 現在、何らかの病気で服薬をされていますか。

①病名

1. _____

2. _____

3. _____

②服薬されている薬品名

1. _____

2. _____

3. _____

4. _____

(別紙様式 4)

推 薦 書

2023 年度教員南極派遣プログラムの参加者として、下記の教員を推薦します。

記

1. 推薦する教員の氏名： _____

2. 教員としての資質・能力等について

(1) 授業や教育への熱意 (いずれかに○)

[非常に高い ・ 高い ・ ふつう ・ 低い ・ 非常に低い]

(2) 特殊な状況や新規な環境への適応能力 (いずれかに○)

[非常に高い ・ 高い ・ ふつう ・ 低い ・ 非常に低い]

(3) 協調性 (いずれかに○)

[非常に高い ・ 高い ・ ふつう ・ 低い ・ 非常に低い]

(4) その他特記事項があれば記入 (200 字以内)

以上

記入年月日： _____ 年 _____ 月 _____ 日

(推薦者)

学校名： _____

職 名： _____

氏名 (自署)： _____

※学校長が記入後、封筒に入れ封印を押してください。開封無効。

(別紙様式5)

許 可 書

年 月 日

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所 殿
公益財団法人日本極地研究振興会 理事長 殿

学校名 _____

学校長氏名 _____ 印

本校に所属する下記の教員が 2023 年度教員南極派遣プログラムに応募することを許可します。

記

1. 応募教員氏名
2. 生年月日
3. 応募教員の専門分野・教科

(別紙様式6)

推 薦 書

年 月 日

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所長 殿
公益財団法人日本極地研究振興会 理事長 殿

教育委員会名 _____

教育長氏名 _____ 印

2023年度教員南極派遣プログラムへの応募について、下記の教員を推薦します。

なお、推薦する教員の派遣が決定した場合において、派遣期間中本人が不利益な待遇になることはありません。

記

1. 推薦する教員氏名
2. 生年月日
3. 推薦する教員の所属学校名

(別紙様式 7)

推 薦 書

年 月 日

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所長 殿
公益財団法人日本極地研究振興会 理事長 殿

法人等名 _____

〇〇〇氏名 _____ 印

※〇〇〇には「学校長」もしくは「法人代表者の役職」を記載してください。

2023 年度教員南極派遣プログラムへの応募について、下記の教員を推薦します。

なお、推薦する教員の派遣が決定した場合において、派遣期間中本人が不利益な待遇になることはありません。

記

1. 推薦する教員氏名
2. 生年月日・性別
3. 推薦する教員の所属学校名

公立学校（教育委員会）用

【応募書類チェックリスト】

年 月 日

- ・ 都道府県教育委員会または指定都市教育委員会にて記入してください。
- ・ 各応募教員の書類が揃っていることを確認し、○をつけてください。
- ・ 応募教員が多く、記入欄が足りない場合はコピーしてご利用ください。

応募関係書類		応募教員名					
		(例) 極地 太郎					
別紙様式 1	教員南極派遣プログラム参加申込書	○					
別紙様式 2	応募教員履歴書	○					
別紙様式 3	健康調書	○					
別紙様式 4	学校長作成の推薦書	○					
別紙様式 5	学校長作成の許可書	○					
別紙様式 6	教育委員会作成の推薦書	○					
別紙様式 7	(別紙様式 7 不要)						
様式自由	「南極授業」計画案 (A4、6 ページ以内)	○					
	帰国後の本プログラムに関する活動計画案 (A4、2 ページ以内)	○					
	所属先等での直近の健康診断結果 (写可)	○					
	現在かかっている病気等がある場合はその診断書 (写可)	不要					

次のページも必ずご記入ください

① 応募事務ご担当者様の情報

教育委員会名	
部署名	
担当者お名前	
所在地	〒
TEL	
E-Mail	

② 選考結果の通知先

※すべての選考の終了後、選考結果を都道府県教育委員会または指定都市教育委員会に文書で通知します。

通知文書のあて先	(例：〇〇県教育委員会 教育長 殿)
郵送先	通知の郵送先は①の応募事務担当者と同じですか？（どちらかに○） はい ・ いいえ

↓
いいえの場合のみ記入

応募結果通知の郵送先	
部署名	
担当者お名前	
所在地	〒
TEL	
E-Mail	

国立大学附属学校、公立大学附属学校、私立学校用

【応募書類チェックリスト】

年 月 日

- ・ 各応募教員の書類が揃っていることを確認し、○をつけてください。
- ・ 応募教員が多く、記入欄が足りない場合はコピーしてご利用ください。

応募関係書類		応募教員名					
		(例) 極地 太郎					
別紙様式 1	教員南極派遣プログラム参加申込書	○					
別紙様式 2	応募教員履歴書	○					
別紙様式 3	健康調書	○					
別紙様式 4	学校長作成の推薦書	○					
別紙様式 5	学校長作成の許可書	○					
別紙様式 6	(別紙様式 6 不要)						
別紙様式 7	学校長もしくは法人代表者作成の推薦書	○					
様式自由	「南極授業」計画案 (A4、6 ページ以内)	○					
	帰国後の本プログラムに関する活動計画案 (A4、2 ページ以内)	○					
	所属先等での直近の健康診断結果 (写可)	○					
	現在かかっている病気等がある場合はその診断書 (写可)	不要					

次のページも必ずご記入ください

① 応募事務ご担当者様の情報

法人名	
学校名・部署名	
担当者お名前	
所在地	〒
TEL	
E-Mail	

② 選考結果の通知先

※すべての選考の終了後、選考結果を文書で通知します。

通知文書のあて先	(例：学校法人〇〇〇〇学園 理事長 殿)
郵送先	通知の郵送先は①の応募事務担当者と同じですか？（どちらかに○） はい ・ いいえ

↓
いいえの場合のみ記入

応募結果通知の郵送先	
法人名・学校名・部署名	
担当者お名前	
所在地	〒
TEL	
E-Mail	

南極地域観測隊員として観測事業に携わることについて

(1) はじめに

南極地域観測は、国際協力の下に日本国が実施する事業の一つです。事業の遂行に当たっては、極地科学に関する研究や観測及び業務に係る複数の機関が担当分野の責任を負い、文部科学省に置かれている南極地域観測統合推進本部が省庁横断的にそれらを統合推進する責任を負っています。

日本の南極地域観測は、1957 年（昭和 32 年）1 月 29 日、南極大陸リュツォ・ホルム湾にある東オングル島に昭和基地建設を決めて以来、半世紀以上にわたって実施されています。この間、輸送に必要な船舶の老朽化等により一時中断があったものの、1961 年（昭和 36 年）の南極条約の発効、極地観測継続の重要性などから南極地域観測事業は再開されました。その後、南極大陸にある日本の観測基地は、拡充整備され、観測と研究が中断することなく実施されています。世界的な観測網の拠点として、定常的な気象観測の継続実施やオゾンホールが発見、研究プロジェクトとしての月隕石・火星隕石を含む世界最多級の隕石の採取、氷床掘削で得た氷床コアの解析による過去数十万年にわたる気候変動の解明及び生態系や大気中の二酸化炭素量のモニタリングによる環境変動の研究など多くの観測研究の成果を得ています。

南極地域観測隊は、観測計画と設営計画の下に、毎年、新たに編成されます。南極地域に派遣される観測隊員は、上記本部長（文部科学大臣）から「観測隊員委嘱」をされます。隊長、副隊長及び隊員で組織される南極地域観測隊は、『南極観測の実施に必要な用務を一体となって遂行する。』ことが南極観測への参加を決定した 1955 年（昭和 30 年）11 月の「閣議決定」のなかを示されています。

このように南極地域観測隊（JARE: Japanese Antarctic Research Expedition）は、極地観測における日本のナショナルチームといえます。

(2) 観測隊員に必要なナショナルチームの一員としての自覚

南極地域観測事業は、国の事業として多額の税金が投入され実施されています。その業務は国から「隊員委嘱」を受けた隊員が、観測隊長の命を受け実施するものであるということを全員が自覚しておかなければなりません。隊員一人一人の行動が観測隊の活動結果として南極本部へ報告されます。隊員は、極地観測における日本のナショナルチームを構成する誇りと意識を持って任務を遂行するとともに、国民の南極地域観測に対する信頼を損なうことのないよう、自らの行動に責任を持つ必要があります。

(3) 観測隊員として応募する前に理解すべきこと

1) 家族や職場との十分な意思疎通が必要なこと

南極地域という特殊な環境に赴くことは、家族や職場等の支援なしには成立しません。観測隊員となることについて、十分な説明のうえ理解と協力が得られることが第一歩です。特に家族にとっては、大きな決断を必要とする事柄です。不在中に予想される家庭や職場での諸事情への事前対処は、当然なすべきことであり、隊員は、南極地域に在る間にも家族や職場との十分な意思疎通を図ることが必要です。

これらの個人的事情について、なんらかの憂慮がある場合や問題が解決できない場合は、観測隊員となるべきではありません。

2) 必ずしも日本国内と同じ生活環境、職場環境ではないこと

南極への輸送は、地理的、財政的及び輸送体制の制限から優先順位をつけて必要最小限の物資を船積みします。従って、日本国内と全く同様の生活環境を保証するだけの、十分な物資を搬入することはできません。しかし万一、次の観測隊との交代が遅れた場合に備えて、1 年分の燃料の備蓄と予備の食料は確保されています。また、昭和基地内のインフラは整備が進み、生活に必要な施設、設備が整っています。このような、限られた条件下にある極地での滞在には、何事にも優先順位や制限があり、それに従わざるを得ない場合があることを承知しておかなければなりません。

3) 医療環境の実情を理解し、納得すること

昭和基地の医療体制は、現在南極で越冬観測を実施している諸外国のものに比べ格段に優れたものです。しかし、南極地域という地理的事情は、救急、リハビリといった部分には厳しい医療環境をもたらします。

隊員候補者となった段階で、機会を設けて詳しい説明がありますが、特殊な環境下にある南極の医療について十分に理解、納得した上で観測隊員となる決断をすることが必要です。

「南極における医療の現状と限界」については、(資料2)を熟読し、現状と限界を理解した上で応募してください。

4) 相互協力が欠かせないこと

「観測隊員としての業務を遂行する」に当たっては、隊員数が限られていることから、分野が異なる担当隊員相互の協力が不可欠です。基地機能の維持に必要な作業を実施するために、各人の担当分野以外の作業が命じられることがあります。

特に、作業計画が多い夏期作業期間においては、限られた人数、物資及び厳しい自然環境の下での業務遂行のため、作業時間が長時間に及ぶことも珍しくありません。このような時期においても、観測隊長の命令に従い各人の協調性と専門的能力をもって、一致団結して事にあたる必要があります。

5) 自分の身は、自分で守ること

各人が安全に対する意識を高める必要があります。観測隊全員の無事の帰国が「一体となって業務を遂行する責任」を果たした証の一つでもあります。基地の施設や設備が進歩しても南極の自然環境は不変です。隊員の事故は、多くの方面に影響を及ぼすものであることを自覚しておかなければなりません。

危険防止については、機会ごとに提供される情報やマニュアル等を確認しておくとともに「自分の身は自分で守る」という基本原則を常に念頭に置いておく必要があります。

特に観測隊は、業務の遂行に必要な専門家による限られた人員で構成された集団であるため、万一発病等で職務の遂行ができなくなった場合、余人を充てることが困難な状況になります。発病は、事故と同様に個人のみならず観測隊の活動にも大きな影響を及ぼすものであることを自覚して日々生活することが必要です。

南極地域という特殊な環境での生活において、隊員は、医療担当隊員により実施される健康指導を守り、円滑な集団生活の創造に進んで協力するなど、身体、精神の両面の健康について自己の責任で管理しなければなりません。

6) 環境保護のため行動に制限があること

南極地域の環境保護については、「環境保護に関する南極条約議定書」、同附属書及びこれらに関する国内法が定められており、南極地域に立ち入る者の全てが「行動計画の確認申請」を行う対象になっています。これは南極地域で行う予定の行動について、環境大臣に申請し確認を受けたものに限られるので、申請に当たっては事前に十分な行動の確認が必要であるとともに、現地にあっては確認を受けた以外の行動をしてはなりません。また、個人で石を持ち帰ること、動物に接近して驚かす等の行為の禁止や廃棄物の抑制と制限など法律により禁止又は制限される行為について充分理解し業務を遂行することが必要です。

南極地域観測隊の医療の現状と限界

南極は、極寒、強風、極夜の存在など、厳しい自然環境であるだけでなく、観測隊員は、少人数からなる閉鎖的な環境で数か月から1年以上の期間を過ごすことになります。

様々な技術が進歩を遂げている現代においても、南極での活動は国内とは比較にならない危険を伴いますが、観測隊ではいかなる時も人命を最優先とし、怪我をした際や病気が発症した際には医療隊員を中心に最善の処置を行います。

国立極地研究所では、隊員の生命と健康を守るための医療設備や治療薬の整備拡充を図っていますが、南極という特殊な環境から、医療面で数々の制約があります。

本稿は、南極地域観測隊における医療の現状と限界について説明したものです。

南極地域観測隊に参加される方は、以下に記す文章をよくお読みいただき、十分にご理解ください。また、参加される方ご自身だけでなく、ご家族にも十分に理解して承諾していただく必要があります。

なお、南極では上記のような厳しい環境での生活となりますので、隊員候補時の身体検査については、細部にわたる身体検査が実施されます。その身体検査において、観測隊の出発までに解決しておくべき健康面での条件を付された場合は、出発前までにしっかりと治療等を行い、付された条件を解決しておく必要があります。解決できない場合は、観測隊への参加はできません。また、隊員決定後も南極での活動に支障のないように体調管理が求められます。

1. 医師体制について

南極地域観測隊では、昭和基地を拠点に活動する本隊と本隊とは離れて行動する別動隊があり、それぞれ医師の体制が異なります。ここでは、本隊と別動隊の基本的な体制について説明します。
※当該隊の医療体制等の詳細については、隊員編成が決定した後にお知らせします。

(1) 本隊…昭和基地を拠点に活動する隊

- ・医療隊員として原則2名の医師が参加します。
- ・南極において求められる医療技術と経験を備えた医師を選抜していますが、医療の領域については、参加する医師により専門分野の違いがあります。専門分野外の医療技術は出発前に必要な研修を行います。
- ・昭和基地では衛星回線を利用した遠隔医療システムが整備されており、このシステムを利用することにより、必要に応じて国内の専門医のサポートを受けることができます。
- ・看護師、検査技師、放射線技師などは配置されていないため、人手が必要な場合には医師以外の隊員の協力を得てこれらの業務を行います。そのため、例えば国内では外科手術の場合、外科医2名、麻酔科医1名、看護師2名で通常行なわれることと比べると、昭和基地では医療業務に支障や様々な制約が生じます。
- ・昭和基地への往復時の南極観測船「しらせ」乗船中、夏期間、越冬期間によって医師体制が変わります。

基本的な医師体制

※医師と歯科医師

	「しらせ」乗船中	夏期間	越冬期間
当該隊	2人	2人	2人
前次隊		2人	
「しらせ」※	2人	2人	
合計	4人	6人	2人

(2) 別動隊…本隊とは別に行動する隊

1) 内陸旅行隊…雪上車で南極大陸内陸部を移動しながら調査活動を行う隊

- ・内陸旅行隊の隊編成により医療隊員が同行する場合としない場合があります。同行する場合は、基本的に1名です。

2) 外国基地を活動拠点とする隊

- ・活動拠点にする基地の医療体制に拠ります

3) 専用観測船で活動する隊

- ・観測船の医療体制に拠ります。

2. 基本的医療設備について

(1) 本隊…昭和基地を拠点に活動する隊

- ・昭和基地には、外科的手術が可能な設備のほか、レントゲン撮影装置、生化学検査機などが整えられていますが日本国内と同等の医療水準を望むのは難しい事が多いです。「しらせ」乗船中についても同様です。

(2) 別動隊…本隊とは別に行動する隊

1) 内陸旅行隊…雪上車で内陸を移動しながら調査活動を行う隊

- ・外科的手術が可能な設備はなく、持参する医療機器にも大きな制限があります。

2) 外国基地を活動拠点とする隊

- ・諸外国の基地の設備に拠ります。
- ・キャンプ活動に備えて医療機器を持参しますが、大きな制限があります。

3) 専用観測船で活動する隊

- ・観測船の医療設備に拠ります。

3. 医薬品について

現地で発症した病気や怪我に対する治療薬は、新たに発症するであろうと予測した患者数をもとにその種類と量を決め、計画的に持参しています。しかし自ずと限度があり、不足するものがあっても観測活動中には取り寄せることができません。

もともと持病があり、日常的に服用している薬がある場合は、医療担当隊員と相談の上、別途自費で出国から帰国までの期間分を準備して下さい。持病を申告せず必要な持病薬を持ち込まないことによって万一重症化した時には、十分な対処をできない可能性が高いため、何らかの薬を常用している場合は、医療担当隊員と相談したうえで、必ず準備をして出発して下さい。

4. 緊急搬出について

緊急搬出とは、南極では対応できない病気や怪我が発生した際、文明圏にある医療機関を受診するために航空機または船舶を利用して急遽南極から文明圏へ傷病者を搬出することを言います。

国内では、一般の病院で対応困難な病気や症状を患者が呈する場合には、さらに高度の医療を行うため専門病院に移送する場合がありますが、南極から高度な治療が可能な大陸（オーストラリア、アフリカ、南米など）への緊急搬出は、非常に困難です。

夏期には観測船の航路変更による緊急対応、諸外国や各国基地の協力による航空路活用などの可能性はありますが、冬期の緊急搬出は不可能です。

5. 野外活動時のリスクについて

基地を離れた野外での行動時の事故や急病について、ファーストエイド等の準備はされていますが、それだけでは適切な処置ができない場合があります。また、天候条件などにより、昭和基地などの治療設備がある拠点へ迅速に収容することが困難な場合があります。

6. 後遺症について

昭和基地の医療施設は急性期疾患を中心とした設備を備えておりますが、慢性期疾患への対応や機能回復訓練を想定していません。そのため、国内では残らない後遺症や機能障害が、南極では発生する可能性があります。別動隊についても同様です。

7. 帰国命令（強制帰国）について

身心上の安全に問題があると診断された場合、隊長及び副隊長（以下、隊長等）の判断により、強制的に帰国させる場合があります。

8. 妊娠および出産について

南極では、妊娠・出産にともなう生じる疾病（流産、胎盤剥離、妊娠中毒症、帝王切開、未熟児医療など）に対応することはできません。妊娠した場合は、母体と胎児に危険が生じたり、その対応のために観測隊の計画が大幅な縮小、変更を余儀なくされたりすることが予想されます。また、前述のように緊急搬出は非常に困難です。

なお、昭和基地で越冬する女性隊員、同行者については、観測船が帰国する時点で妊娠反応試験を実施することを承諾していただきます。妊娠が確定した場合は、隊長等が帰国を命令することがあります。

9. 個人情報の取扱いについて

診療に関する個人情報は日本国内と同様に保護され、原則として診療情報の提供には本人の同意を求めます。ただし、南極という特殊状況下に於いて、隊の運営上必要と判断される場合は、本人の承諾を得る前に、医療隊員が隊長等並びに国内医師及び南極観測センターに、傷病名や疾患名とその予後を報告する場合があります。また、通信回線を用いた遠隔医療の運営や情報交換に際しては、個人情報の保護に努めますが、その保護には限界があります。

なお、隊員候補者の健康判定のために実施した個人健康診断データ及び、南極行動中に得られた定期健康診断を含む医学医療データは、昭和基地における健康管理や安全性向上のための貴重な基礎資料となります。将来的な医療改善と医学研究推進のため、個人を特定できない形で活用することがあります。

